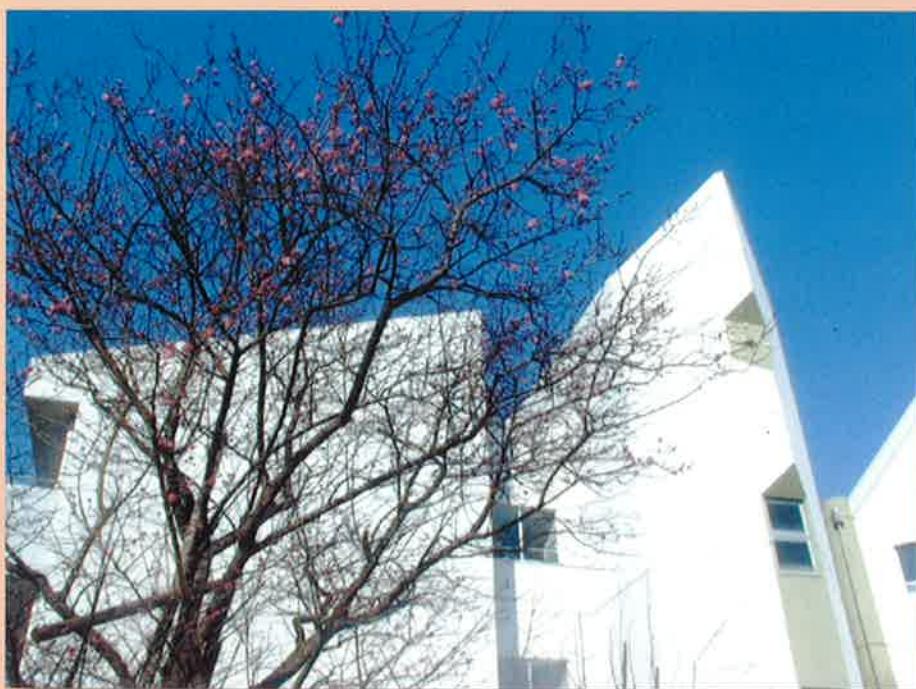


# 小田の丘

2002



創立 10 周年記念誌

横浜市立小田中学校

創立10周年記念誌

# 小田の丘



横浜市立小田中学校

# 10th Anniversary Koda Junior High School



## 目 次

航空写真	2
校歌・学校教育目標・校旗・校章	4
小田中学校 10年のあゆみ	6
思い出	18
生徒が主役 ～活気あふれるクラス～	28
生徒が主役 ～生徒会活動～	30
生徒が主役 ～躍動する力 部活動～	34
PTA活動	36
地域と共に ～地区懇談会より～	40
歴代教職員名簿	48
同窓会規約・編集後記	49

# 小田中学校校歌

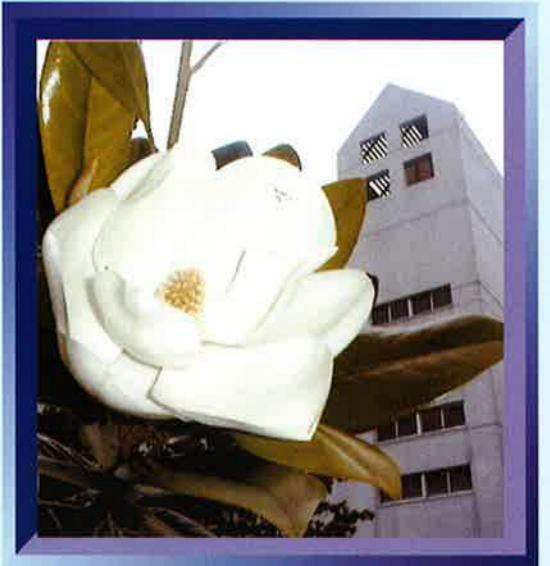
作詩 武山俊彦  
作曲 岩河三郎

日がのぼる 日がのぼる  
光る海 輝く校舎  
足どり軽く 今心あらたに  
学びきたえ語り歌う  
海からの青い風  
沖を行く白い船  
目に染みる若葉のみどり  
陰をつくる泰山木よ  
明るい風からだいばに受けて  
若さあふれる  
力みなぎる  
七色の歌声が空にひびく  
なつかしい 小田の丘から  
空にひびく

梅亭書院

## 学校教育目標

- 個性が發揮できる学校生活
- 一人の人間として自分らしさを發揮し、生きる喜びを実感できるようにします。
- 誰もが尊重される学校生活
- 互いの立場を尊重しあい、進んでコミュニケーションがとれるようになります。
- 地域と共につくる学校生活
- 地域（まち）との交流を積極的に進め、地域（まち）の一員としての自覚を高めるようにします。



## 校章の由来

この校章は、小田中の「小」と「中」をとつてデザイン化されました。「小」は未来に羽ばたく鳥をイメージしてつくられたものです。

制定にあたっては、校章制定委員会において地域、職員、生徒より公募した作品の中から笠倉恵介さん（当時二年生）の作品を採用決定しました。



## 校歌の由来

儀式の時だけでなく、いつでも思い出して口ずさむことができることを念頭において、初代校長の武山俊彦先生が、全校生徒、保護者から公募した詩の中から、詩句を選んで作詞されました。

その歌詞に、「巣立ちの歌」などで知られる岩河三郎先生が、曲をつけられました。  
この校歌は、平成五年十一月五日の校歌発表会で披露され、すばらしい「混声三部合唱」が小田の丘に響き渡りました。



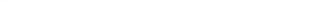
平成四年四月一日、横浜市の中で一四四番目に開校した小田中学校は、富岡の丘陵地帯にあり、付近一帯は起伏の変化にとんでいて木々も多く、また、晴れた日には、遠く丹沢の山々と重なるように、美しい富士山が眺められます。風光明媚な土地でもあり、古くは鎌倉から明治の頃、多くの政治、経済、文化にゆかりのある人達の憩いの場所として広く利用されてきましたといわれています。しかし、時代の流れとともに、住宅地として人口が増加の一途をたどり、多くの人々が居を構えることになりました。小田の名称は、昔、富岡町字小田あさこだと称していたことから、字名を採用しました。すでに、平成三年度に開校した小田小学校と隣接しているため、小田中学校と称することは、ごく自然ともいえるのでこの校名となりました。

小田の丘から 校名に寄せて



# 小田中学校

10年あゆみ



# 平成4年度

4月1日 開校式



## 生徒代表の言葉

宮内佐智子



4月6日 入学式

## 入学式

平成4年4月6日、ピカピカの校舎とまだ整備されない校庭の中、新入生は小田中の新しい標準服を来て入学しました。迎える側の在校生徒の2年生は皆、前浜、富岡、富岡東の三校の標準服をそれぞれ着ていました。校歌も無い静かな入学式でしたが、先生方の新しい学校を築く意気込みが保護者にも強く伝わり、新一年生と二年生が力を合せて進んでいこうという熱気に感無量となりました。

(保護者より)  
PTA広報誌より

今回、小田中学校が開校するにあたって、私達はいろいろな壁を越えてきました。新一年生は、小学校を離れる時には仲が良かつた友達やお世話になつた先輩との別れがとても辛かつたことと思います。新二年生も、前の学校での中学校生活が、一年間だけといふのはあまりにもあつけなく時が流れたことだと思います。また新一年生と同様に、仲が良かつた友達や、部活の先輩などの方々との早過ぎた別れには悲しみが深かつたことでしょう。

しかし、これまでの悲しみや辛さばかりにひたつていてはいけません。私達には、小田中学校開校という新しいスタートが始まつたばかりなのです。ここにいる全員が小田中学校に対する不安や希望を抱いています。私も同様な気持ちでいっぱいです。しかし、その不安な所を自分達で改善すれば、これから的小田中学校での生活を築き上げていけると思います。



6月1日 1年遠足  
三浦海岸

12月14日 生徒会設立説明会

## 生徒会ができるまで

生徒会準備委員長 木村 義将

この小田中学校に生徒会をつくろうと五月に生徒会準備会が、希望者によつて結成されました。委員長の木村君を中心に、まず生徒会の土台をつくつていきました。生徒全員に、生徒会が必要だということを全員にわかつてもらおうと、生徒会準備委員全員で、一生懸命、最善を尽くして考えました。結局ビデオづくりを進めました。何度も何度もとりなおして、分かりやすいビデオをつくりました。ビデオもできて、しおりもつくり、全校生徒に見てもらい、その感想や質問をもとに、もっと内容的な事を話し合うために生徒会設立委員会として、一年生も加わり、生徒会設立のために、他の学校の良い所をぬきだし、それを小田中独自の生徒会規約になおしました。ほんの細かいところも、生徒会設立委員全員で、おかしな文や、前後の関係など、ミスのない生徒会規約づくりをめざしてがんばりました。生徒総会でOKがもらえなければ今までやつた事が、全く無意味になつてしまつて、何回も何回も念入りに見なおしをしました。その結果が、むくわれ、生徒会設立が決まりました。五月に結成した生徒会準備委員会から、五ヶ月間、生徒会設立委員会も含めて、小田中生徒会が、発足することができ、僕達にも、やつつかの間の休息が訪れました。しかし、休む間もなく本部役員の選挙となりました。会長をはじめ、ほとんどどの役員を、旧準備委員が占める結果になり、また、忙しい日々が始まります。



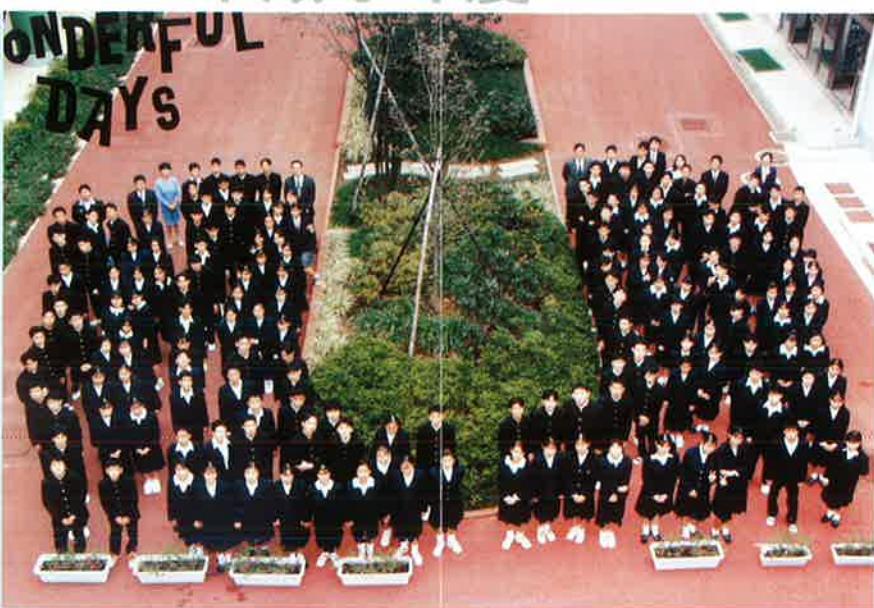
〈第1回生徒会選挙立会演説会〉



〈生徒会役員発足〉

生徒会広報誌「小田」より

# 平成5年度



## 第一期生徒会長を終えて

生徒会長 澤 口 昌 紀

任期満了となつた。もう僕は生徒会長ではない。当たり前である。だが、生徒会長の仕事とか自觉というものに、どっぷりとはまつていた僕には、そんな当たり前のこともすぐに実感できなかつた。そう感じ始めたのは、周りの人から「旧会長」とか「元会長」と呼ばれるようになり、少し経つてからだ。

今まで取り組んできた生徒会活動の中に僕は多くの悔いを残してしまつた。例えば、皆さんの意見があまり反映されなかつたとか、やりたかった事が全部はできなかつた事だとか。それとは逆に、今までの全ての活動に全精神力を注ぎ込めた、ベストを尽くせたという満足感もある。その二つの気持ちがごっちゃになり、「もう終わりか」なんていう気持ちになつた事も当たり前の事がなかなか実感できなかつた理由の一つだと思つ。(中略)

最初は「小田中の土台を僕達の手で築き上げてみせる。」とやる気まんまんだつたが、続かないもので、時に「なんで会長なんかになつたのだろう。」と、とんでもない事を思つたりした。無責任にも程がある。周りの人からの「頑張れ」の一言や、ある先生の「自分で引き受けた仕事は最後までやり通せ」という助言がなかつたらとゾッとする。特別な才能も経験もなく、唯一やる気だけがとりえだつたがなんとかやり通せ、本当に良かつた。とまあ、この一年間で様々な事を経験し、そして成長させて頂きました。全てが自分にとってプラスになつた事は確かです。将来、これらがどう生かされるかは分かりませんが、必ず役に立つと思っています。皆さんのが協力により、土台はできました。あとは、第二期役員と一緒に生徒の皆さんのが中心となつて小田中学校と生徒会を発展させていく下さい。一年間、本当にありがとうございました。皆さん一人一人に感謝します。

生徒会広報誌「たけのこ」より

11月5日 校歌発表会



9月22日 運動会



## 第1回卒業証書授与式

今日は、あと10日余りで卒業式を迎えようとしている3年生の球技大会だ。明るくさわやかな笑い声がグラウンドのあちこちから聞こえてくる。ボールを追う姿も進路がほとんど決まつた安心感から軽やかである。

そのようすを職員室から眺めている私に2人の男子生徒が大きく手を振つてくれた。「ヤッホー！ 楽しんでいますか！」という気持ちを込めて私も手を振つて返礼をした。

思い起こすと何もない、ないないづくりの中での開校。「小田中学校」と名乗つても何回も聞き返される新設校の悲しさ。「オダ」と読まれぬように、「小田（コダ）中学校」と名刺にカナをふつた先生方。言葉に言い尽くせぬ生徒や保護者・地域の方々のひたむきな努力。

あれから2年。生徒会もPTAも校章も校歌もみんな悲しき。「オダ」と読まれぬように、「小田（コダ）中学校」と名刺にカナをふつた先生方。言葉に言い尽くせぬ生徒や保護者・地域の方々のひたむきな努力。

3月10日(木) 第1回卒業証書授与式。いよいよだ。

あなた方は小田中学校に入つて以来ずっと最上級生としての重責を担つてきた。今日のこの日はあなた方が創りあげたといつても過言ではない。だからこそ、それにふさわしい門出を大いに祝いたいものだ。

あなた方が卒業証書を授与される舞台には花をいっぱい活けよう。菜の花をね。あのまつ黄色の花と、黄緑色の葉はあなたの方の輝しき未来を象徴しているようではなつか。そこに向かう新しい階段をつくろう。その上に真つ赤なじゆうたんを敷くことにしよう。そこをあなた方は胸を張つて堂々と歩いてほしい。そして、担任の先生の呼名に応えて「はい」と会場中に響く凛(身のひきしめるようす)と冴えわたる大きな返事をしようではないか。

私たちも在校生も会場中の人々は、そんなあなた方に手を真つ赤にして痛いほどの拍手を送り続けるつもりだ。

# 平成6年度

5月21～24日（3泊4日）  
3年修学旅行 奈良・京都



授業風景より

## 『よこはま子ども国際フェスティバル』

英直美さん（3年2組）が「よこはま子ども国際平和フェスティバル」の子ども実行委員に委嘱されました。「横浜—リヨン国際平和子ども会議」に参加し、「横浜—リヨン平和のモザイク」の共同製作をします。さらに、国際連合本部（ニューヨーク）に行き、平和募金と「横浜子どもピースアピール」をガリ事務総長に渡すことになります。

4日（月）の朝会のときに委嘱状の伝達を行いました。英さんは、クラスをはじめ皆さんに多くの迷惑をかけるかもしれません、しっかりと責任を果たしたいと、少し不安そうな表情でしたが立派な決意を述べてくれました。  
10日（日）に日本をたちいしい朝食を食べたところですとのことでした。15日（金）には、古谷先生（美術科）宛に電話がありました。共同製作の「平和のモザイク」（原画は英さんが描きました）が完成したとの報告でした。明るく弾んだ声でした。元気には帰国します。10月に予定されている「横浜国際平和フェスティバル」で、今回の取り組みの報告を行います。帰国した後も忙しいかもしれません、最後まで頑張ってほしいと思します。（※フランスのリヨン市は横浜の姉妹都市です）

H6・7・20 「学校だより」より

## タイ米 カレーパーティー

10月22日（土）の「生き生きはまっ子の日」は、小田小学校とともに地域清掃を行います。地域や保護者の皆様の協力を得て従来から取り組んでいるクリーン運動を拡大させることで行います。地域清掃のあと、学級を単位として力レーバーティーを計画しています。500人分以上のカレーをつくることになります。保護者の皆様のご協力がぜひとも必要だと考えています。つきましては、タイ米、にんじん、たまねぎ、じゃがいもを各家庭より持ち寄り、その他必要な材料は学校で用意して行いたいと思います。タイは日本の台所といわれるほど多くの農産物をわが国はタイから輸入しています。ブロイラー（焼鳥）、冷凍エビ（えびフライ）、冷凍枝豆、酢漬け（とうが海苔巻きあられ）、冷凍イカ、チキン入りのわさびなどなど数多くあります。しかし、タイ米だけは国産米に私たちが慣れているせいか、せっかく緊急輸入されたのに倉庫に眠っていることになってしまいます。食わず嫌いという言葉もあります。この機会にタイ米をおいしくいただこうと考えています。

H6・9・30 「学校だより」より



陸上部  
伊東修さん  
☆全国大会  
男子200m  
男子200m出場



6月17～21日  
(3泊4日)

2年自然教室  
白樺高原

H7・1・31 「学校だより」より

阪神大震災  
兵庫県南部地震は、死者5千余名、家を失い避難生活を送っている方が30万近くという戦後最大の災害をもたらしました。各地から援助の手がさしのべられています。本校の生徒会でも、23日から25日の3日間義援金を募り、21万2千195円を集めました。ボランティア委員の1円募金も阪神大震災の義援金に拠出しました。また、職員及び有志の方の団体でも義援金を募り、生徒会で集めた分と合わせて被災地に送らさせていただきました。ご協力ありがとうございました。



校歌碑完成

# 平成7年度

## 増える休日をどのように過ごしますか

11月11日(土)を生き生きはまっ子の日として設定しました。学校5日制の趣旨をご理解していただく機会としました。実施後、生徒を対象として、アンケートを行いました。右にあるのがその集計結果です。学校で、休業日である土曜日の過ごし方として、紹介し、計画した事業への参加は少なかったのは残念ですが、今の生徒たちは疲れているのでしょうか、家の中にいて過ごしたのが大半を占めています。

希望する方を見ても、外への活動への志向もありますが、家での休養が大きな割合を占めています。

今世紀までには、完全5日制へ移行すると思います。これから的生活スタイルを考える参考にしています。

H7. 11. 30 「学校だより」より

### アンケート結果

11月11日(土)の、午前中を中心どのようにすごしましたか。(複数回答)

項目	1年	2年	3年
1. クリーンハイク(学区周辺)を行った。	2%	0%	0%
2. 博物館など無料開放施設を利用した。	4%	3%	1%
3. 小田中の茶会に参加した。	3%	2%	2%
4. 小田中のサッカー教室に参加した。	2%	2%	1%
5. 家でゆっくり休養した。	37%	42%	47%
6. 家の中でゲーム、読書など好きなことをした。	33%	27%	28%
7. 家の手伝いをした。	15%	12%	10%
8. 家族でおしゃべりなどをした。	14%	8%	10%
9. 家・図書館などで勉強した。	11%	8%	12%
10. 近所で遊んだり、運動したりした。	18%	16%	9%
11. 映画・旅行・買物などに行った。	28%	28%	18%
12. 部活動をした。	2%	0%	0%
13. 整いや習いごとを行った。	13%	17%	18%
14. ボランティア活動や地域の活動に参加した。	2%	0%	3%
15. その他	26%	23%	17%

その他には、病気、釣り、ボッサとしていた、学校見学、地域のクラブ活動、友人の家訪問などがありました。

これからの希望として、学校が休みの土曜日に、どのようにすごしたいですか。

(複数回答)

項目	1年	2年	3年
1. 家でゆっくり休養する。	59%	63%	63%
2. 家の中でゲーム、読書など好きなことをする。	49%	31%	34%
3. 家の手伝いをする。	11%	8%	14%
4. 家族でおしゃべりなどをする。	10%	13%	10%
5. 家・図書館などで勉強する。	14%	11%	23%
6. 近所で遊んだり、運動したりする。	36%	29%	24%
7. 映画・旅行・買物などに行く。	48%	58%	63%
8. 部活動をする。	17%	12%	10%
9. 整いや習いごとに行く。	9%	6%	5%
10. ボランティア活動や地域の活動に参加する。	6%	2%	8%
11. その他	13%	18%	9%



10月  
26  
・  
27  
日

文化祭



200400m 自由形  
全国大会 出場  
三橋 徹也さん

# 平成8年度



6月3～5日  
3年修学旅行  
奈良・京都



6月9日は開校記念日です。  
目に染まる 若葉の緑 陰をつくる 泰山木よ。

校歌のシンボル的存在である泰山木の存在は、意外と知られていないようです。実は、コミュニティーハウスの前にあるのです。開校とともに植えられたのですが移植の難しい木だそうで、これは三代目です。『グランドの脇にも泰山木』と、初代のPTA会長安藤和史様から寄贈をいただきましたが、残念ながら移植がうまくいきませんでした。

この度、再度泰山木をと熱い思いを込めて、安藤様と前PTA会長宮道不二男様から寄贈をいただき、中庭に移植されました。ありがとうございます。

今年は、小田中学校開校5年目です。小田中と共に大きく育つてほしいと願っています。

H8.6.3 「学校だより」より



タイサンボク 【モクレン属】 (漢) 泰山木  
北米南部原産の常緑高木で明治初年渡来。幹は直立  
高さ10～20m、葉は長楕円形で上面は光沢のある暗緑色  
下面には鉄鏽色の密毛がある。花は5～6月、枝先に香氣  
のある白色の大輪を開く。 牧野植物図鑑より抜粋。



9月19日 運動会



自動販売機が作動しています。

12月17日(火)から自動販売機が作動しました。大きな混乱もなく生徒は上手に利用しています。パンの袋と缶の回収の分別もしっかりと行っています。保健委員会では、缶の中味の成分について展示できるよう放課後熱心に活動しています。今ところは珍しさもあり大人気ですが、必要以外の金銭の出費にならないよう考えて利用してほしいと思います。

H8.12.24 「学校だより」より

# 平成9年度

6月6日  
1年遠足

金沢自然動物園周辺



10月30・31日  
文化祭



授業風景より

剣道部 菊地原佳子さん  
全国大会

関東大会 出場

水泳部 三橋 泰典さん  
全国大会  
200m自由形出場



全国・関東剣道大会に参加して

菊地原佳子

私はこの夏全国大会と関東大会に出場しました。全国大会は神奈川県で2名、関東大会は4名の枠しかありませんでした。が、私は運よくその中に入り、その両方に出演できました。二つの大会の様子を話すと話しきれないので、一つびつくりしたことを話します。全国や関東の選手は眼が自信であふれていました。「あの子強そう。」とか「私、負けちゃうよ。」などと弱音を吐くような子は一人もいないことでした。それだけつらい稽古にも耐えて、誰にも負けないという自信があつたのだと思います。私もそれに負けないくらい練習をしてもつともつと自信をつけたいと思います。

全国水泳大会に参加して

三橋 泰典

8月20日、僕は小田中の期待と応援を受けて朝4時55分、始発で羽田に向い、羽田で県の選手団に合流して飛行機で香川県に向いました。

香川について早々、試合会場のプールにアップをするために出かけました。

僕のレースは2日目なので1日目はとてもリラックスできました。しかし、2日目に近づくにつれ、口数が減り、レースに集中し始めました。一夜明けて2日目。体調もバツチリ。僕は確信しました。これなら心ゆくまでレースを楽しめると…。そしてレース。「ヨーイ、バン」の音と共に今までの気持ちが弾けました。最初のペースは予選会の時よりも2秒も早いオーバーペース。なぜ本番でこんなミスをしてしまったのか、悔やんでも悔やみ切れません。僕は自分の未熟さを思い知らされました。しかし、とても良い経験をさせてもらつたと思っています。今回の全国出場は一つの大きなステップとしてこれからの大人生に役立てたいと思います。

# 平成10年度



7月7日 球技大会

5月29日～

6月1日

2年自然教室  
白樺高原

「どうの中勇気を出して足入れるその感触は今まで残る」

「あの空に流れる星を探してた  
燃え立つ炎三日めの夜」



## 稚魚たちよ！元氣で！・サケの稚魚・多摩川に放流する

養護教諭 河野可祢代

2月21日（日）、発眼卵から3ヶ月間大切に育てたサケの稚魚を多摩川に放流しました。

小田中学校からは、3年保健委員、視聴覚委員長（ビデオ撮影に協力）、そして熊谷先生、サケの輸送を担当して下さった馬場副校長先生、そして私（河野）の総勢12名。

横浜駅から田園都市線 三子新地の川原まで1時間余り、快晴ではありましたが、とても風の冷たい日でした。  
何百匹？という稚魚が浴槽のような大きな水槽の中で群れているものもあれば、2、3匹が入った20cmくらいの水槽を大切にかかえた子どもや、大人達が様々な入れ物を持って川原に集まってきたました。

10時過ぎに、横浜、川崎、サケッ子の会の主催で「サケを放流する会」が始まりました。小学生の「大切に大切に育てたサケの赤ちゃん、いろいろな試練に遭うでしょう。でも、大きくなつて必ずもどつてきて下さい。」という「サケを送る言葉」に感動しました。

いよいよ放流！

1人ずつ、網ですくい、水辺にそっと流します。直後、勢いよく川下に向かつて泳いで行くのもあれば、自分の周りをウロウロし、おもむろに泳ぎ出すのもあり、名残を惜しうるよう見えたのは私だけだったでしょうか。  
稚魚達よ！元気に海を回遊し、きれいな水をとりもどした多摩川をそとする姿を見せてほしいと願いながら：放流は無事に終了しました。H11・3・3「学校だより」より



12月19日 2年収穫祭

# 平成11年度

9月17日

運動会



授業風景より



10月28・29日  
文化祭

輝かそう、とつておきの自分

文化祭実行委員長 小田中職員 西 嘉之

今年の文化祭には、従来とはいくつか違う点があったことにお気づきでしょか。その一つはテーマ（星）やスローガン（輝かそう、とつておきの自分）、シンボルマーク、ポスターなどが運動会と共通であったこと。二つ目は、これまでのオープニングセレモニー、クロージングセレモニー、全校イベントを、シンプルに開・閉会式としたこと。三つ目は合唱コンクールの結果発表、表彰を閉会式の前に行ったこと。そして四つ目は、これまで体育館入り口に作成していたアーチを、今年はスロープから体育館前までの広い範囲にわたる装飾にしたことです。さて、この文化祭では生徒会役員に文化祭実行委員会と運動会実行委員会の正・副委員長を加えて計13名で組織した「行事運営委員会」が企画を担当しました。委員たちは、共通テーマやスローガンのもとで、この文化祭を小田中の新しい文化創造の契機にしたいという熱意をもって活動を進めました。そして、まずは開会式で自らがとつておきの自分を輝かすことにより全校生徒に範を示す練習を積み、デビルステイックとディアボロの演技を披露しました。また、閉会式ではキロロが歌う「僕らはヒーロー」をメッセージジングルに選び、その歌詞をより印象深く伝えられるようによと手話コーラスを行いました。

その他のプログラムでもたくさん的人が個性を輝かせ、また、ステージや展示発表、合唱コンクール、部活動の発表など様々な場面で仲間との素晴らしいチムワークを随所に見せてくれた一日でした。

保護者の皆様には、文化祭前の朝練習では早朝からお弁当作りなどでご協力いただきました。また、当日はたくさんの方にご高覧いただきました。ありがとうございました。

H 11.11.4 「学校だより」より



# 平成 12 年度



7月  
11日

## 球技大会

**新しい学校教育目標が決まりました。**「ご協力ありがとうございました」

昨年10月から11月にかけて、保護者・地域の皆様には、「新しい学校作りに向けたアンケート」にご協力いただき、まことにありがとうございました。11月には生徒のみなさんにもアンケートを行い、平成14年度からの新しい学校作りに向けた貴重な資料として、集約・検討を全校あげて行つて参りました。(その概略については学校便り1月号に掲載させていただきました)それを受けて、新しい学校教育目標を、次のように決定いたしました。

◎個性が発揮できる学校生活

○一人の人間として自分らしさを發揮し、生きる喜びを実感できるようにします。

○誰もが尊重される学校生活

○互いの立場を尊重し合い、進んでコミュニケーションがとれるようにします。

○地域と共に育む学校生活

○地域(まち)との交流を積極的に進め、地域(まち)の一員としての自覚を高めるようにします。

これは、前記アンケートの「23の成長課題」のうち、生徒のみなさん、保護者・地域の方々が、その達成のためによく努力していると考えられた「生きる喜びの実感」「人とのコミュニケーション、協調・協力」そして本校が従来より学校の特色として推進し、今後特に支援が必要と考えた「交流、ボランティア、社会貢献」を重点課題として決定したものです。

これらの学校教育目標の実現のために、教職員が一丸となって、教育活動を推進してまいります。今後とも、ご指導・ご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

H12.11.24 「学校だより」より



授業風景より



文化祭

10月  
26・27日



# 平成13年度

平成13年度から

『総合的な学習の時間』がはじまります。

新たな学校作りの一歩として、平成13年から「総合的な学習の時間」に取り組むこととしました。

本校では、従来から、遠足・自然教室・修学旅行などの行事を「生きた学習の場」として活かせるよう、各教科・または複数の教科が協力しながら、事前・事後の学習に取り組んで参りました。

それを土台として、来年度は、1学期に行われる各学年の校外行事と関連して、生徒の皆さんのが自ら興味・関心を持って調べたり研究したりしたい課題を見つけ、それを自分たちで考え、工夫しながら追究していく時間を設けることにしました。

それが、来年度行われる「総合的な学習の時間」です。

「総合的な学習の時間」は、大きくとらえると、次のようなねらいを持つています。

◎地域（まち）の一員としての自覚を高める「学び」の実践

・「まち」に学び、「まち」をつくる生き方を目指す。

・「学び」の内容をすすんで「まち」に発信する態度を身につける。

・他とのかかわりの中で、「まち」を知り、「まち」を愛する心を養う。

ここでいう「まち」とは、「学区」といった狭い意味ではなく、私達の住んでいる「場所・人・施設・働き」などすべてを含んだ、大きな「環境」のことを指しています。

たとえば、修学旅行では、京都・奈良を中心に滋賀・大阪の4地域で活動が行われます。その4地域の自然・歴史・文化や人など、生徒の皆さんのが興味や関心のあることを自分たちで（個人で、あるいはグループで）事前に調べ、そのことを実際の修学旅行の中で確かめ、整理し、発表する機会を設けます。その中で、他の地域と比較することにより、私達の住む「まち」の特色を再認識し、「まち」を愛する気持ちを育んでいきます。

5月31日～6月2日  
3年 修学旅行



H 13  
2.14  
「学校だより」  
より



10月25・26日  
文化祭



# 平成14年度

3月	1月	12月	10月	9月	7月	15日	31～6/1日	5月19～21日	4月5日
			27日	26日	25日	25日	29日	19～21日	8日
				20日	9日				
			27日						
卒業証書授与式	生徒会役員選挙	校内書き初め展	記念式典	「まちの先生」学習活動の発表	合唱「コンクール	学校創立10周年記念行事	地域が子どもに望むこと	3年修学旅行	始業式・入学式
			記念祝賀会	フェスティバル	その他	運動会	球技大会	大阪・奈良・京都	学校週五日制完全実施 新学習指導要領スタート 離退任式
							1年宿泊学習	白樺高原	10人の先生方が本校を離退任されました。
							三浦半島		
							街の教育座談会・地区懇談会		
							～子どもが地域に望むこと		



5月26日～29日  
2年 自然教室 白樺高原



5月31日～6月1日  
1年 宿泊学習 三浦ふれあいの村



5月19日～21日  
3年 修学旅行  
大阪・奈良・京都

## 運動会歴代記録

100m男子	12秒1	伊東修	(平成6年度・3年)
100m女子	15秒1	石神美奈子	(平成8年度・1年)
200m男子	25秒7	鈴木将太	(平成11年度・3年)
200m女子	30秒0	高森麻美	(平成7年度・3年)
400m男子	58秒0	米山裕介	(平成12年度・3年)
50mH男子	8秒0	横田崇史	(平成5年度・3年)
50mH女子	9秒0	高橋知子	(平成6年度・2年)
1500m男子	4分48秒5	大浦洋一	(平成7年度・2年)
1000m女子	3分26秒0	太田友美	(平成8年度・3年)
学級対抗リレー1年	1分29秒0	1年1組	(平成8年度)
2年	1分23秒8	2年3組	(平成9年度)
3年	1分21秒8	3年5組	(平成7年度)
学級全員リレー1年	5分22秒0	1人平均8秒4	1年1組 (平成13年度)
2年	5分03秒0	1人平均7秒9	2年3組 (平成14年度)
3年	4分32秒3	1人平均7秒7	3年1組 (平成14年度)



# 思い出

## 十年を振り返つて

創立十周年記念事業実行委員会委員長  
初代PTA会長 現PTA会長 安藤 和史

横浜市立小田中学校創立十周年を、迎えられましたこと、心より御祝い申し上げます。本校は、平成四年四月一日、開校致しました。本日ここに、無事十周年を、迎えられましたのも、歴代校長先生はじめ、教職員の方々、PTAの皆様、地域の方々、そして大勢の関係者による御骨折り御尽力の御陰であり、ここに深く感謝致しますと共に、厚く御礼を申し上げます。

私は、四十歳を過ぎるまで、父親で有りながらも、学校にかかることが、ほとんど有りませんでした。その私がPTA会長とは、自分でもとても信じられませんでした。あれから早いもので十年が過ぎました。私が最初に小田中へ伺つたのは、平成四年七月末のことでした。真新しい立派な校舎が、とても印象的で、私の心中に残つております。今では、緑あふれる小田中ですが、まだその頃は校庭には木が一本もなく、それどころか、運動場など整備工事が終わつていませんでした。八月中には、工事が終わり、運動会には間に合うとのことで、私は安心しました。

私の家は、富岡西三丁目、旧番地は、富岡町字小田です。ですから「小田」という、名前には、何か親しみのようなものを感じます。学校に行くには、富岡公園に出て、階段を登り、今のみづきが丘の遊歩道を真っすぐ登つて小田中に行きましたが、みづきが丘には一軒も家は無く、全部空き地になつておりました。ですから、校歌に歌われているように、「光る海」が今よりずっと大きく見えたのです。

夏休みの間に、PTA設立準備のため、小田中に通い始めました。

そして、あの九月十四日、PTA設立総会が体育館で行なわれ、大勢の方々の出席のもと、無事設立総会が終わり、私と小田中の付き合いが始まりました。何も無い所から始まつたPTA、何をやつても手さぐり状態の中、設立総会、運動会が行なわれました。あの時、朝七時に、頭の上で「ドカン・ドカン」と、鳴る大きな花火の音、この音を合図に運動会が行なわれました。そして、一年生が競技をしていると、二年生は次の準備で、見学する人がいない、ちょっと寂しい運動会でした。それでも、本

部席、敬老席などから大きな拍手がおこりました。

そして、十一月二十六日、第一回文化祭。平成五年三月二十五日、修了式。このころ、小田中の植栽工事がほぼ終了しました。この年は、一・二年生だけですので、卒業式は有りませんでした。四月五日、第二回入学式、これでやつと、普通の中学校と同様に三年学年が揃つたのです。

そして、あの忘ることのできない第二回運動会、その日は天候も悪く、運動会はどうなるのかと心配で、朝七時前に学校に行つてみました。校長先生はじめ、大勢の先生方、そして「今から花火を上げます。」と言う花火屋さんが、校庭で、「ドカン、ドカン」。午前中は何とか天候も、運動会の行なえる状況だつたのですが、午後からは、大粒の雨。運動場はあちらこちらに大きな水たまり、その水たまりの上で、組立体操。そしてピラミッド、水たまりに顔をつける子ども達。地域の方々もずっと見守つてくれださつた運動会でした。

この時、会長の挨拶が、「皆さん、今日はどうも御苦労様でした。早く家に帰つて、お風呂で温まつて下さい。」この短かい挨拶が、子供達にとても受けたようです。あれだけ、ずぶぬれになつた子ども達、次の日、風邪をひいて学校を休む子は、一人もいなかつたと聞きました。この運動会以来、小田中の運動会は雨が付き物となつてしましました。

そしてもう一つ、これも忘れられない校歌発表会、大勢の地域の方々、そして各中学校の校長先生の出席の中、全校生徒の歌う校歌がとても印象的でした。

平成六年三月十日、卒業証書授与式、この卒業式が何をやつても、第一回といつ後の行事になりました。私は、PTAについて何もわからぬまま会長の任に付き、無事一年六ヶ月の大任を勤め上げることができました。そして感じましたことは、自分で言うのもおかしいですが、人間がひとまわり大きくなつたようです。そしてすばらしい勉強をさせて頂きました。ですから、できるだけ大勢の方々に、PTA会長、又役員を経験して頂きたいと思つております。

校長先生はじめ、諸先生方、そして回りの役員の方々に支えて頂き、本当に有りがたく思いました。これで小田中ともお別れだと思っておりましたが、回りの方々の強い推薦もありまして、十年経ち、再び、PTA会長と共に、この十周年実行委員長まで引き受けさせて頂きました。御陰様で、小田中と私は、切つても切れない関係になりました。最後になりましたが、これからも小田中学校が、益々繁栄されることを御祈りし、見守りつづけて行きたいと思います。

# 創立十周年を迎えて



校長 原 泰弘

小田中学校は平成四年四月一日に地域の発展に即応して開校致しました。今年は、開校して満十年が経ち節目の年を迎えております。この記念すべき創立十周年を皆様とともに祝いできることを大変うれしく思います。そして何よりも、これまでに寄せられた地域や保護者の皆様の大さなご支援と初代校長武山俊彦先生をはじめ歴代の校長先生方並びに教職員の皆様方の並々ならぬご尽力に深く感謝申し上げる次第でございます。

学校沿革史によつて開校準備の段階から簡単に振り返つてみますと、平成二年十一月に第一回開校準備委員会が開催され、委員長に早野元一様が選出されました。その後、会を重ねられ、校名、学区、通学路等の諸問題について審議がなされました。そして、平成四年四月の開校時には、標準服も決定され、新入生は小田中学校の標準服を着て入学式に出席することができました。さらに、開校一年目という、なにかと慌ただしい中にもかかわらず、校章の制定やPTAの発足など学校としての基礎づくりが着々と進められております。教育活動におきましても、現在も本校の教育実践の基本理念となつています「生徒が主役」を柱とした学校づくりにすでに取り組まれております。

開校当時の生徒数は一、二年生のみで三四六名でしたが、平成七年にはピークを迎え五〇〇名を超えるまでになりました。しかし、その後は生徒数は減少傾向に転じ、現在は三九〇名となっております。創立以来の卒業生の総数は一、四六一名を数えるまでになつております。

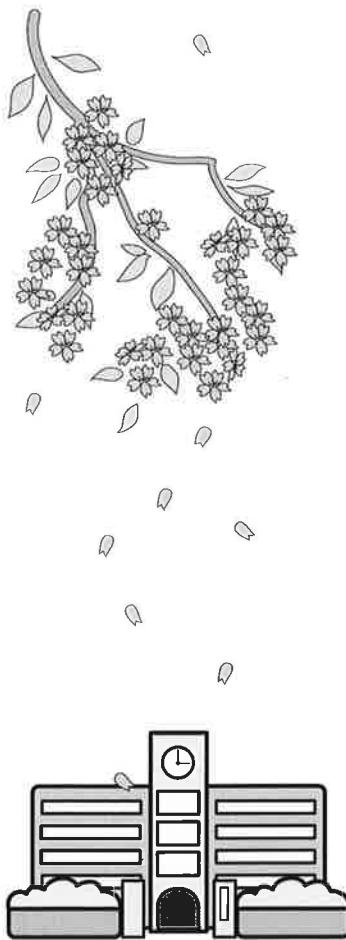
このように地域や保護者の皆様、横浜市教育委員会をはじめとした関係諸機関や先輩の教職員の皆様、その他大勢の皆様の善意溢れる陰に陽にわたるご努力のおかげで、現在の小田中学校があるわけでございます。改めて感謝申し上げます。

さて、本校開校から満十年が経ち、二十年目をめざし新たなスタートをする今年度は、日本の教育にとっても大きな節目の年であります。教育改革元年とも言われるようになります。完全学校週五日制の実施や文部科学省の新しい学習指導要領が全面実施される年にもなつております。この新しい学習指導要領は、生徒に「生きる力」を育むことをめざし、自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り個性を生かす教育の充実に努めることを目標としています。また、横浜市では、子どもが

「自分で自分の生き方を切り拓いていく」ことを支える「生き方の教育」の実現をめざしています。具体的には、①子どもは自らよりよく成長していくこうとする存在であるという認識のもとに、学校と家庭と地域が協力して豊かな成長を支えていくことをめざす。②子どもが自分で自分の生き方を切り拓いていくために必要な基礎・基本を身に付けることをめざす。③子どもの生活や生き方に結びつく学習を大切にする。これらを受け本校では、次の三つを柱とした教育目標を掲げ特色ある学校づくりに努めています。第一は「個性が發揮できる学校生活」これは生徒一人ひとりが自分の個性に自信を持ち、それを十分に發揮することを通して、生きる喜びを体感しながら日々の学校生活が送れるようになります。第二は「誰もが尊重される学校生活」これは自分の個性を大切にすると同時に、他者との違いを認識し、その「違い」を相手の大切な「個性」として尊重し、すすんでコミュニケーションをとり協力しあいながら学校生活を送ることにより、豊かな人権感覚を育み相互に成長しあえるようにすること。第三は「地域と共につくる学校生活」これは「開かれた学校」として地域との連携を一層深め、生徒一人ひとりが「地域（まち）の一員」としての自覚を高めるようにすることをめざしています。

この教育目標の実現に向け、学校は家庭・地域とより一層連携を密にするとともに、教職員一同力を合わせて努力する所存でございます。

小田の丘での教育が始まって十年が経ちました。開校宣言には、「当地域の発展に即応し、横浜市金沢区富岡西一丁目七十三番一号に横浜市立小田中学校を開設します。充実した教育が行われ優秀な中学校に育成されることを期待しここに開校を宣言します」とあります。この開校宣言の期待に応え小田中学校はこの十年で素晴らしい学校に成長しました。小田中学校のさらなる発展のために、今後とも地域の中の学校として、多くの方々のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。



# 学びきたえ語り歌う



初代校長 武山 俊彦

一瞬「これで開校に間に合うかな?」と思いました。しかし、その心配は一瞬のものでした。

開校式は体育館で予定どおり開くことができました。皆さん一六七名を迎える入学式も立派におこなうことができました。校庭の整備が続けられていたので体育の実技を除けば生徒の学習活動は初めからきちんと進めることができました。

平成四年（一九九二）四月一日・小田中学校開校。ひとことで言えばこのとおりなのです。

でも、そこに至るまで、さらに開校してからいろいろなことがありました。と言つてもいやなことではなく心あたたまる、明るく、楽しいことばかりでした。

まず、開校にあたって設立された「小田中学校開校準備委員会」の皆さまにはただただ感謝を申し上げるばかりです。

とくに委員長をお引き受けくださった早野元一様（当時、屏風ヶ浦地区連合町内会長）、副委員長の須田利一様（同上 笹下地区連合町内会長）同じく副委員長の内田亮一様（同富岡第一地区連合町内会長）同じく副委員長の深野浩一様（同浜中PTA会長）、の皆さまは常に地域の学校をつくるという発想でお取り組みくださいました。同じく委員の牟田常雄様（同杉田台自治会長）は開校後も何かにつけてご助言くださいました。

PTAは初代会長安藤和史様（現会長）のお力で着実な活動が始まり、二代会長宮道不二男様の好リードで積極的な活動が続き今日に至つております。

また、校歌碑の寄贈をはじめとして物心両面にわたつてご援助くださいました保護者の多田五郎様のご厚意は十年経過した今も忘れることはできません。

さらにPTA開設に際して浜中PTAの加藤和夫様（のちに浜中学校・杉田小PTA会長）の、仕事を投げうち地域を超えてのご助言、ご指導は本当に助かりました。

本来なら、右にお名前をあげさせていただいた方を含めて、お世話になつた方、ご協力いただいた方おひとりおひとりにお会いして、御札を申し上げなければなりませんのですが、それもならず、この場をお借りして御礼申し上げます。

あの折は本当にお世話になりました。有難うございました。小田中の生徒、教職員に賜りましたご厚情は決して忘れません。心より感謝申し上げます。

平成四年の三月の終わり、小田中学校の校長に内定した私は、開校直前の小田中をそつと見に行きました。校地内には何台もの車がとまり、いろいろな作業をやつてい るようでした。その時のことを、卒業記念文集に次のように書きました。

新設校は、いわゆる伝統と歴史がないために、生徒だけでなく保護者の方々も何かについて心配される事も多いようです。

私達は、新設校なるがゆえのハンディを生徒に課さない決意を持っています。したがつて教科学習の指導——50分授業、ひとりひとりの個性、能力に応じた指導をはじめとして諸行事、諸活動も他の中学校に決して遅れることがないよう計画し、実践に努めています。

これから一年の遠足、二年の自然教室、二学期の運動会、文化祭など行事はいろいろあります。これらの行事はすべて、生徒が主体的に取り組み、生徒の若さとアイデアにあふれたものにするつもりです。

この考え方に基づき二十八名の教職員で取り組みましたかが、どうだつたでしょうか。私はこの考えに基づいたものをほばやりとげることができたと思つております。

「ほばやりとげることができた」という新設校・小田中に対する思いは私だけではなく二十八名教職員全員の思いであつたと考えています。

そして、十年経過した今、小田中学校はどのように成長したのでしょうか。

世の中、社会はすばやく変化すると言われていますし、これは止むをえないと思ひます。

小田中の先生がたにお聞きしたことによれば、小田中生もたしかに変わつてきているが、学習を大切にする、友達と仲よくする、校舎をきれいに使うなどのよい点は相変わらず残つてゐるそうです。

小田中生らしさをいつまでも持ち続けてほしいものです。

## 「心の支え 小田中学校」

第二代校長 寺澤 博昭



創立十周年、おめでとうございます。

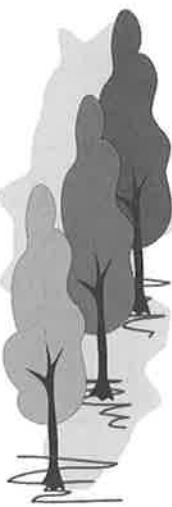
平成六年四月に赴任したときは驚きの連続でした。輝く海を前に、ホテルのような校舎、そしてなによりも活気にあふれた生徒たちの顔。すばらしい学校に勤務することになつたと感じずにはいられませんでした。初代の武山校長・高橋副校長先生を中心とした、開校以来の教職員の熱意にあふれた取組と保護者・地域の皆様の絶大な協力が見事な成果となつて現れていました。

時間のたつのを忘れて練習や制作に取り組んだ文化祭、グランドでも練習した合唱コンクール、雨など気にせず全員リレーで盛り上がる運動会、校内に自動販売機を設置した生徒会役員会の自信と熱意など、走馬燈のように思い出されます。

ある日の朝会時、せかされて向かつた体育館の入り口で、「生徒はこれから集まるんですね」と問いかけると、「もう集合しています」と言われ扉を開けたところ、話し声一つない全校生徒を目の当たりにし、予定していた話をせずに賞賛の言葉で終わったことを今でも鮮明に覚えています。

平成九年四月、意に反して小田中学校から教育委員会に転勤することになりましたが、その教育委員会では新しい教育プランを作成の真っ最中でした。これから教育を考える中で小田中の三年間が私の大きな支えとなりました。すばらしい出会いとエネルギーをいただいた小田中に感謝しています。この新しいプランの中で「まちとともに歩む学校」「ゆとり・活力・魅力ある学校」づくりをめざしています。その先頭を歩んでいるのがまさに小田中学校だと思います。

最後になりましたが、十周年記念事業の準備をいただきました皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、繰り返しになりますが、小田中学校が今後「まちとともに歩む学校」としての益々前進・発展することを心よりご祈念申し上げます。



## すばらしい中学生

第三代校長 大竹 朋子



創立十周年 おめでとうございます。

平成九年四月より三年間小田中学校にお世話になりました。「生徒が主役」を合言葉に、生徒、保護者、地域の方々、教職員が、明るく前向きに学校の諸活動を支えていました。創立十周年を目前にして、小田中学校の校風、伝統がまさに築き上げられようとしていた時期ではなかつたかと思い返されます。

PTA、地域の方々には本当にお世話になりました。地域の中にある中学校を大切にしていることを折に触れて感じました。元気な生徒たちが大勢活動している学校では、日々トラブルが発生し、これを避けて通ることはできません。その都度、できる限り情報をオープンにして、対応を共に考えていただいたら、励ましていただいたらしながら積極的に行動することの大切さを知りました。

教職員の方々との楽しい思い出はたくさんあります。葉山、三浦方面と二度にわたって生徒指導の宿泊研修をしましたが、言葉を使って相手に物事を伝える難しさを、ゲームを通して感じ取つたり、ロールプレイの内容検討を通して生徒指導の疑問点を率直に、且つ熱心に話し合つたりしたことが鮮やかに思い出されます。生徒指導に対する一人一人の教職員の熱意をあらためて感じる機会でした。

何と言つても一番心に残るのは生徒たちです。小田中学校退職の年に、校舎を使つての宿泊行事をおこないました。卒業期を迎えて「有終の美を飾ろう」という気持ちから生まれたものでした。初めての試みであり、当初の計画にはなかつた行事でしたので、実施までにはさまざまな問題がありました。生徒会の実行委員会のメンバーが行事検討委員会の先生方と話合いをする場面がありました。終わって出てきたメンバーに聞きますと「授業の時の先生と違つて、とても怖かった」と言います。それを聞いて、先生方をそんなに真剣にさせた生徒たちはすごいと心から思いました。一晩中校舎で活動するに当たり、地域の方々への挨拶をする等丁寧に自分たちの手で問題を解決していきました。卒業生に限らず、学校生活で見せてくれた一人一人の生徒たちの姿から、生き生きした創意とエネルギーとを感じ、「中学生はすばらしい」と小田中学校の生徒たちから教えてもらいました。そしてそんな生徒たちを支えている保護者、地域の方々はやはり素晴らしいと思います。十年を節目にこれからもますます活力あふれる小田中学校でありますようにと願っています。

# 小田中学校生徒会設立当時を回想して

初代生徒会長 澤口 昌紀

この度は小田中学校創立十周年を迎えたこと、心よりお祝い申し上げます。早いもので、私達一期生が卒業してもう八年の歳月が流れました。先日、同窓会設立関係で久しぶりに小田中学校にうかがいました。十歳になつた私たちの母校は、今なお小田の丘に真っ白く美しく輝きながら、凜として建つていて、誇らしく思いました。校舎内に入り、在校生とすれ違うたび、見知らぬ私にも元気よく挨拶をしてくれて、大変嬉しかったです。日頃熱心にご指導されている教職員の皆様、そして、保護者、地域の皆様に深く感謝申し上げます。

小田中学校へ転入して間もない頃、当時の担任だった迫裕一先生が「生徒会を創らなければ」とお声がけくださつた事がきっかけで、私も生徒会設立に携わることになりました。各クラスからも有志が集まり、「生徒会準備委員会」が発足。まずは「生徒会を創るかどうか全校生徒に問う」というところから始めたのでした。ポスターやプラカードを作つて「生徒会を創りましょう!」と呼びかけたり、ビデオで「生徒会があるとこんなにいいことがあるんだ」と啓発したりしました。そうした努力が報われ生徒総会での承認を受けることができ、今度は具体的な組織体系や規約をつくるために「生徒会設立委員会」が発足しました。木村義政君をリーダーに、担当の先生方のご指導のもと、近隣中学の生徒手帳等を参考にしながら生徒会会則案や組織案を作成していくました。ただ真似をするだけでなく、「もつといいものを」ということで、保健委員会や生活委員会などの各専門委員からの提案をよりよく反映させるための組織として「拡大役員会」を設けたりしました。皆、燃えていました。次の生徒総会に向けてそれらを盛り込んだ資料を作成するのに、原稿を何回もチェックしていただきながら書き直したりして、夜遅くまでかかることもしばしばでした。そうして迎えた生徒総会でようやく生徒会設立の承認を受け、リーダーの木村君から「小田中学校生徒会を設立します!」と宣言された時、充実感や達成感を皆でかみしめることができたのは、金の思い出です。「学校から与えられる生徒会」ではなく、文字通り、「生徒の、生徒による、生徒のための生徒会」が設立され、スタートしたのです。今振り返ると制服は浜、富岡、富岡東とバラバラでしたが、皆で力を合わせることで、一体感が加速されたと感じます。その後、初の生徒会組織で行事の企画・運営は「第一回だからこそ絶対に成功させ、今後の土台を固めるんだ。」という思いで、時に激しく議論しながらも、一步一歩着実に小田中の歴史を創つてきました。「協力し合う風土」これが脈々と受け継がれていき、今後益々小

田中学校が発展されますことを心からお祈り申し上げます。私たち卒業生もこれからも在校生の皆さんを見守つていきたいと思います。

## 「小田中学校」

第五代生徒会長 新村 晋

日が昇る、日が昇る。原稿依頼を頂いてから、久し振りに校歌を「ずさんでみると、中学校時代の思い出が次々と蘇つてきました。先生や友達と過ごした三年間は、勉強、遊び、生徒会活動、部活動など全てにおいて充実したものであつたと思います。

入学当初に、「この学校は生まれたばかりなので、あなた達がこの学校を育っていくんですよ。」と先生がおっしゃいました。そんなピカピカの小田中学校が、ついに十周年を迎えた今年、私は補助員として自然教室に参加してきました。現役の生徒達と直接触れ合うことで、小田中が素晴らしい学校に成長したことを実感することができます。私が小田中で歩んだ道のりが、そのまま小田中の歴史になり、それが現在に続いているのか、と思うと嬉しくなります。私が入学した時は、皆、白い規定のスニーカー、白いソックスをはき、今は無きKODAバッグを背負っていました。もちろん茶髪、ピアスなどは禁止。

最近、近所でラフな格好で歩く小田中生を見かけると「小田中も変わったなあ。」と思ってしまいます。しかし、それは仕方のないことです。時の流れと共に社会は変わり、文化も変わっていきます。特に若者の「流行」という文化は、一際目まぐるしく変わっていくのですから、ずっとと同じというわけにもいかないでしょう。本当に大事なのは外見ではなく、もつと内側にあるものだと思います。

自然教室に行つて改めて考えさせられました。小田中生の根本的なものは今も昔ど何一つ変わってはいません。むしろ、今的小田中生の方がより良くなっているように感じました。優しく温かい先生方に囲まれた小田中学校の生徒達は、この先も伸びと成長していくでしょう。私達、卒業生も、いつまでも温かい目で見守つていきたいと思います。

## 小田中生だつた頃…

第七代生徒会長 前崎翔太郎

小田中学校創立十周年おめでとうございます。たくさんの思い出のつまつた小田の丘をなつかしく思つてしまふことを最近少しあみしく感じます。

僕が生徒会長だったのは第七期のことです。今からだとずいぶん昔の事になつてしましました。僕らの時から実行委員を中心だった、文化祭や運動会を、統一テーマ・スローガンのもと生徒会役員と実行委員会が協力しあつて行う方法になりました。今思えば先生方の協力はもちろんですが、小田の新しい歴史の一歩目を踏み出すお手伝いができたのかな、と思うと少しうれしくなります。

僕達の学年は非常に元気がよく、仲がよく、団結の強い学年でした。そのため、学校行事の運営や事前の呼びかけなどは比較的やりやすかつたのかなあと感じます。とはいっても、その当時は辛いことも苦しいこともたくさんありました。なかなか進まない会議や遊んでふざけて先生に怒られた事もありました。数々の困難を乗りこえてこの役職をやりとげることができたのはいつも支えてくれた役員のみんなや同学年の友人達、温かい目で優しく助けてくれた先生方のおかげなのは言うまでもあります。大盛況の中、幕を閉じた運動会。クラス全員で一本のバトンをつなぎ全員リレーでは一人一人が輝いていました。そんな僕達を象徴した行事の一つが文化祭でした。「輝かそうとつておきの自分」のスローガンで運動会に続いて行われた文化祭ではクラスごとの活動に加え、生徒会のコーナーを設置して、全校生徒の顔写真を小田の名物泰山木を型取った空き缶壁画にはりだしました。しかし、やはり目を引いたのはステージ発表と合唱コンクールでした。「星」をテーマにし、各クラスとも熱の入った発表を行つた初日や、夏休み前から練習し続け、ついにその日を迎えた合唱は各クラスとも三年間で一番の出来でした。

さらに僕たちの学年は卒業前、学校で夜通しぐして「小田つ子オールナイト」を行いました。苦労はありました。先生や仲間達とぐつと親しくなれ、自分は小田中生でよかったです。と実感をもつ瞬間でした。この場を貸りて当時の先生方、難しい僕らの企画につきあつていただき、ありがとうございました。最高の思い出です。

小田中での思い出を語り出したらきりがありません。中学の時「中学の友人は一生ものだよ」と言われた事に、今はつきりうなづけます。きれいな校舎、緑豊かな環境、最高の先生、最高の仲間。時は流れても思い出はつきません。これから二十年三十年と月日がたつても、小田中は小田中であつてほしいと思います。ずっと僕たちの原点であり、ふるさとの小田。これからも輝き続けてください。



# 生徒が主役

2002年度各クラスの

- 学級目標
- 学級目標にこめた思い、決意
- クラスの様子

## ★1年1組

### ☆学級目標：友情・愛情・信頼

☆1年1組は、全体的に仲が良いためとっても信頼感があります。そのおかげで、球技大会では、良い結果が残せたと思います。クラスの中休みでは、笑いがたえません。男子は、定規で遊んだりしています。女子は、絵を書いたり、歌手の～さんかっこよくないなど話し、うるさいくらいにぎやかです。うちのクラスは、「よく遊び」「よく学び」です。

## ★1年3組

### ☆学級目標

協力・明るく・楽しく・元気いっぱい1年3組！

### ☆学級目標にこめた思い

もっと協力が出せるクラスになるためまた、明るく楽しく、元気いっぱいであふれるクラスになるため

### ☆学級の様子

今は、だんだんクラスがまとまり出してきて、目標どおりに元気いっぱいであふれています。

## ★1年2組

### ☆学級目標

『一人はみんなのために　みんなは一人のために』

### ☆この目標をつけた理由

みんなで協力して助け合いができるようなクラスにしたかったからです。

### ☆学級の様子

すごく明るい元気なクラスです。この前の球技大会ではみごと優勝!!チームワークもばつぐんです。

## ★2年5組3年5組

### ☆学級目標

・自分のことは自分でしよう。・みんなと仲良くして楽しい学校生活を送ろう。「あいさつ」や「返事」がしっかりできるようにしよう。

これらを目標に、生徒5人と先生2人で、ファミリーのような生活を送っています。学校の行事と区の行事を平行してやっていくので、忙しいときはとても忙しく、学校をあける日も、多くなります。



# ～活気あふれるクラス～

## ★2年1組

### 『萬理一空』 2年1組

——みんなの思いが空に一つになるように——

☆団結力があり

男子も女子も仲の良い  
明るく楽しいクラスです！

## ★2年2組

2年2組の学級目標は「勇気を持って今を生きろ」  
(LIVE NOW WITH COURAGE)

☆この目標は前向きに挑戦しようという意味もあり、  
深く考えれば考える程、色々な意味をもつ言葉だと思います。

このクラスは明朗かつ誠実なメンバーが多いのが長所  
だと思います。ただし、明る過ぎて先生を困らす事も  
多々ありますが、目標に向かって頑張るクラスです。

## ★2年3組

### 『努力・根性・Never give up!!』

☆これが2年3組の学級目標です。この目標には、何事にも努力し、根性を持ち、最後まであきらめないでがんばる、という思いが込められています。2年3組は今、一人一人がこの目標に向かってがんばっています。球技大会の時では種目ごとに協力し、がんばることができました。これからも2年3組は学級目標へ向けてがんばっていきたいです!!

## ★2年4組

2年4組の学級目標は never give up です。

☆この学級目標には、みんなで最後まであきらめずにがんばろうという思いがこめられています。2年4組は、明るく、そしてみんな仲良くすごしています。先生におこられることもしばしばありますが、音楽の授業で歌う歌は、ほかのクラスに負けないくらい、自信があるようです。これが、2年4組なのです。

## ★3年1組

学級目標：「なんでもできちゃう1組どんとこい！」  
☆この目標にこめた決意は、困難な問題やできない事でも、みんなで挑戦すれば必ず可能になる。だからみんなで頑張ろう、ということです。3年1組はとても元気で明るいクラスです。話し合いの時などでも、一人一人が考え積極的に意見を出してくれる活気と協力する気持ちがあります。目標に向かって、色々なことに全員で挑戦し努力していこうと思います。

## ★3年2組

我等、3-2一同は、毎日毎日騒がしいくらい元気です。We Can Do It. を合い言葉にし、その元気のおかげで球技大会で準優勝することができました。修学旅行や球技大会など様々な行事で、どんどんクラスの良い部分が見えてきます。盛り上がるとなかなか冷めない2組なのでこれから先もいろんな行事で、目標：「1人はみんなの為に、みんなは1人の為に」を中心に刻んで、がんばっていきたいです。

## ★3年3組

### 学級目標：夢

☆思いや決意：いろいろな行事で夢に向かって、一人一人、協力し合って助け合い、みんなの団結力が深まればいいなあと思って、決めた学級目標です。

学級の様子：とても、にぎやかで、とても、おもしろく、とても優しい人がいっぱいいるクラスです。この優しい人達が、みんなを助け合って、信頼し合い、責任感があり、やるとときはやるクラスです。

## ★3年4組

☆激しく元気にパワフルトロとニコニコ最後の1年間  
☆少し長い学級目標ですが、いろいろな4組に対する思いのつまった目標です。「激しく」「元気に」「パワフル」は、4組のいつもの様子を表しています。そして「トロ」とは、竹内先生の事です。似ていると思いませんか？「ニコニコ最後の1年間」は中学校生活の最後を楽しくすごそう。という気持ちが込められています。

# 生徒が主役



△生徒会役員選挙△



△生徒会拡大役員会△



△球技大会△

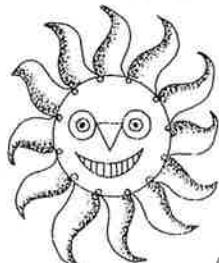


港日文化基金  
横浜研修団来校  
交流の様子  
2002.7.16



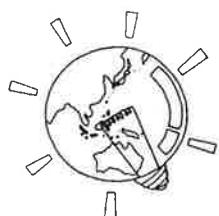
1992年度

テーマ：Creation（創造）  
スローガン：『咲け、創造の花。輝け、文化の花。』  
シンボルマーク制作者：山野邊紋子



1993年度

テーマ：BIRTH（誕生）  
スローガン：光は光を生み、文化は文化を生む  
シンボルマーク制作者：笹倉恵介



1994年度

テーマ：REVOLUTION（革命）  
シンボルマーク制作者：早瀬奈津子



1995年度

テーマ：SHINE  
シンボルマーク  
制作者：黒川あゆみ

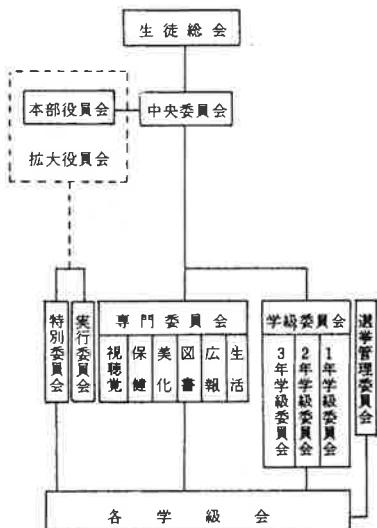


1996年度

テーマ：EMOTION（感動）  
シンボルマーク制作者：鈴木茉莉奈



## 小田中学校生徒会組織



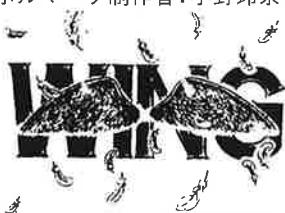
2002年度



シンボルマーク制作者：蓮沼明子

2001年度

テーマ：「翼」  
スローガン：限りない思いを風に乗せて  
シンボルマーク制作者：小野玲奈



2000年度

テーマ：「花」  
スローガン：散ることのない自分らしさを  
シンボルマーク制作者：大丸恵未



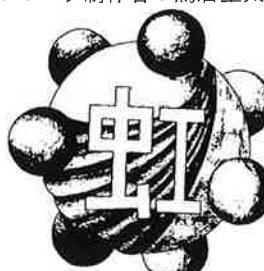
1999年度

テーマ：「星」  
スローガン：輝かそうとておきの自分  
シンボルマーク制作者：菊池まゆ



1998年度

テーマ：「虹」  
スローガン：～Bright Rainbow～輝く虹のように～  
シンボルマーク制作者：鳥居星太



1997年度

テーマ：DELIGHT

スローガン：一人の喜びからみんなの喜びへ  
シンボルマーク制作者：吉満裕子



# ～躍動する力 部活動～



野 球



陸 上



サッカ－



テニス



卓 球



バレー



合 気 道



剣 道



茶道



吹奏楽



演劇



美術

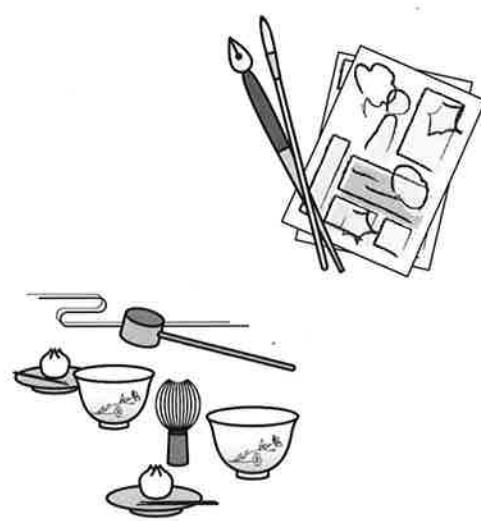


情報研究



水泳

バスケット



# PTA活動

## 役員会

PTA活動の運営

役員会・実行委員会を開催して  
学校・各委員会との連絡・調整をしています。  
対外的交流活動

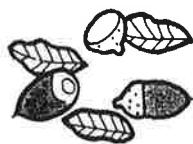
近隣の小・中学校と交流や情報交換をしてい  
ます。

PTA活動の記録と会費の管理



## 学年委員会

ベルマーク収集  
標準服・リサイクル



## 広報委員会

広報誌を年2回発行

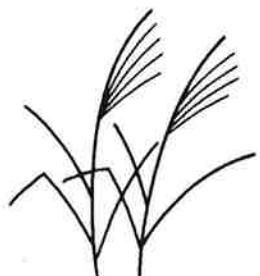
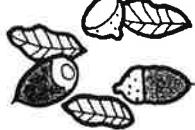
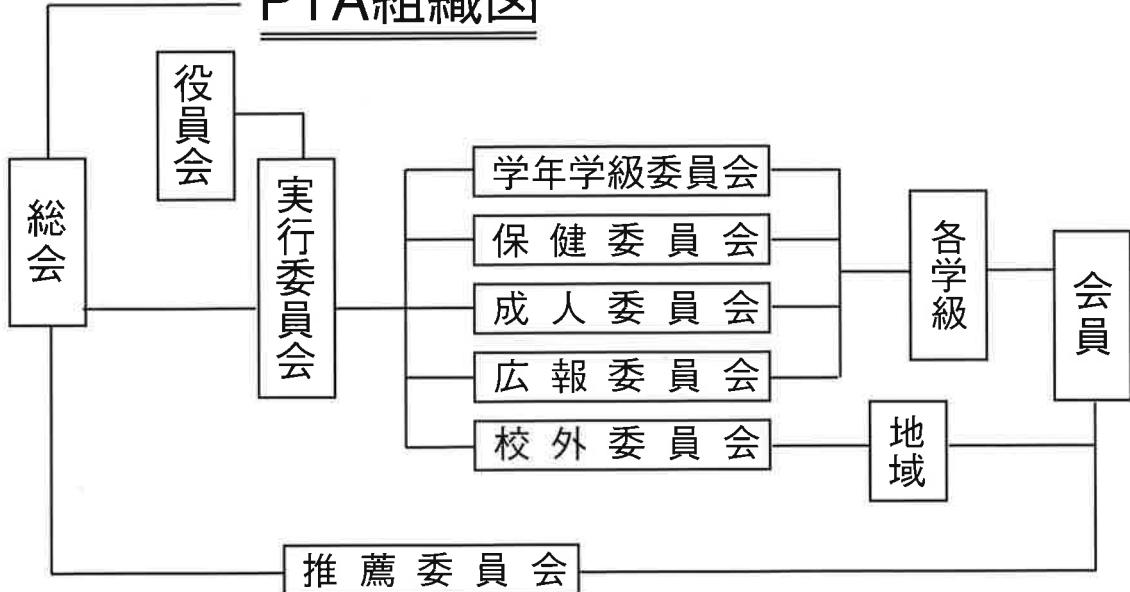


## 校外委員会

地区懇談会・街の教育座  
談会等検討・準備・実施  
パトロール実施・全校ク  
リーン運動



## PTA組織図



**成人委員会**

講習会・見学会・鑑賞会を通じ会員の交流を深め教養を高める。



植えるなどの取り組みがされているというお話をしました。小学生一人のお話が終わりました。小田切君お願ひ致します。

**小田切** 「子供が地域に望むこと」僕は、椿ヶ丘地区に住んでいます。椿ヶ丘に望むことは、まず、青少年部というものをしっかりと活動させてほしいということです。青少年部が活動すれば、近所の子供や、ちょっと離れたところに住んでいる子供とも仲良くなれるし、絶対に楽しいと思います。そして、青少年部を通じ、親同士が、親睦関係になり、とても近所づきあいがよくなると思うからです。そして、近所づきあいがよくなると、何かあつたときでも、助け合ったり、協力し合ったりすることにより、信頼関係が深まり、椿ヶ丘全体が、温かみのある、町内会になると思います。次に、地域での挨拶についてです。挨拶というのは、人と人とのコミュニケーションの中で基本的なことでもあり、一番大切なこともあります。ですが、その基本的なことが、ちよつと欠けてきていると思うのです。誰もが挨拶をされると気持ちのよいものです。最初の一言は、勇気のいることだと思いますが、その一言を言つてしまえば、習慣づけられると思います。町内会でも挨拶をしようといふことを回覧板や地域の掲示板などを利用し、地域の人達に呼びかけてみればよいと思いません。そして地域の人達と交流をどんどん深めていくチャンスだと思って、先ほども言つたとおり、勇気をだしてみたら、必ず、いいものが生まれてくると思います。このように、コミュニケーションを深めていけば、今年の十周年行事も、地域の方々とスマーズに行われると思っています。以上で、僕の意見は終わります。

**司会** ありがとうございました。椿ヶ丘の自治会の例を上げながら、信頼関係、それから、挨拶、コミュニケーションのお話をありました。それでは、次に、森下さんお願ひ致します。

**森下** 私が地域に望むことは、この地域に住む人がもっと交流を深めていきたいということです。



**司会** ありがとうございました。地域の交流を深めるというお話をあつたと思います。今日のこの活動そのものが、積極的交流を図るいいチャンスであるというご発言がありました。それでは中學生の最後です。飯伏さんよろしくお願ひ致します。

**飯伏** 私は、子供会が中心となつて運営する地域行事とその宣伝方法について地域の方々に要望します。私の住んでいる杉田台には、挨拶のできる親しい人達がたくさんいます。そんな方々と出会えるひとつが子供会の行事でした。しかし、中学校入学と一緒に、子供会に参加ができなくなり、このような機会が大幅に減ったように思いました。私達もそれに後押しされ、地域主催のバザーなどにも参加することにも気が引けてしまっています。ですが、日々の計画はもちろん、この小田中十周年記念行事、火災や震災が起きたときなどのいついかなる場合でも、必要となつてくれるのが地域

す。なぜ私がこう考えたのかというと、交流を深めることによって、お互いに協力し、助け合う心が生まれると思ったからです。たとえば、私達中学生は放課後に、委員会や部活動があり、遅い時間に帰宅する生徒が多くいます。実際に私は生徒会や部活動で七時頃に帰宅することがあります。また、このあたり一帯は、住宅街もあり、商店などが少なく、人通りもまばらです。暗い夜はただでさえ危ないので、商店などが少ないため、何かあつたとき、助けを求める場所がありません。そんなときに知り合いの家が近くにあればよいのですが、都合よくいくとも限りません。そのようなことになる前に、地域の人々と交流を持ち、知り合いになついていたら、どうでしょうか。少しでも面識を持つ人がいれば、私達も少し安心ができます。また、急な坂道が多いこの地域で困る事はありませんか。たとえば、お年寄りの方がたくさんの中物を持って、坂道を上っている光景が見られます。そのようなときも、私達は、積極的に助け合いの手を伸ばす必要だと思います。このように、私達は、地域との交流をたくさんはかっていくことが、とても大切だと思っています。最近は、小、中学生の子供関係を持てば先ほど言つた通りに、協力し合い、助け合えるのではないでしようか。では、行事や活動に積極的に参加するとはどういうことなのか。それはこの会にでていることがそうなのです。また、今年は小田中十周年ということで、特別な行事、この会も含めてですが、たくさんあります。機会はいくらでもあるのですから、私達はこのチャンスにお互いの距離を縮めていくことが必要だと思います。すなわち、遠くの親戚より、近くの他人、っていう関係を築きあげたいと考えています。これで、私の発表を終わります。

の団結力です。それが生まれていくのも、地域行事だと思います。またそれらの広報についても、考えてほしいと思います。地域の掲示板や回覧板を用いただけではただ、見過ごしてしまつたり、私達の目に入るまでは及ばなかつたりと私達自体も関心も薄く、自分の属している地域のことがよくわかつていなことがあります。子供会に参加していた頃は、会員専用の回覧板があり、必ず子供の目を通すようになつています。これらのことを通して、私の独断と偏見で考えを述べさせていただくのであれば、盆踊り、夕涼み会などのお祭りの種類や回数を増やし、小中学生専用の回覧板を作つて宣伝します。この回覧板で、行事、ここでは、いわゆるお祭りですが、その手伝いをしてくれる、小中学生を募集してはどうでしようか。お祭りは毎年たくさんのお供や大人が訪れますし、地域の大人の方々と一緒に作業する事によって、両者の間に会話が生まれ、親しくなれるかもしれません。来る小田中十周年記念行事は、まさに地域で一つとなり、これらのことが実現できることと思います。そこでできた地域としてのまどまりを今後も保ち、そして深めるためにも、地域と地域行事のあり方をもう一度見直していくつてほしいです。以上で私の意見発表を終わります。

司会 ありがとうございました。地域の行事の種類を増やしたりどうか。それから小中学生用の回覧板でお手伝いしてくれる人を募集してはどうか。十周年のフェスティバルの地域行事が皆さんとの深まりを高めていくことになるのではないかということお話をありました。では地域代表の方、桜井さんよろしくお願ひ致します。

桜井 今日、私は地域との交流と同時に、まず、中学生の皆さんに、基本に帰つていただきたいということを申し上げようというふうに、思つておりました。ところが先ほど小田切君と飯伏さんから私の言おうと思つていたことを全部言つてしまわれたので、困つているのが実情でございます。ということは、私は、まず、地域が子供に望むことという題でございましたので、地域が子供に要求するというか、お願いするということは、まず、皆さんのが健康であつてほしいということです。体の具合が悪くて、

## 一　～　山　王　～　こ　と



皆さんのが交流したり、具体的な行動をとることは、非常に難しいことだと思いますので、まず、健康であつてほしいと願つております。地域と致しましては子供さんたちの健康ということは学校にお預けして、体育の時間であり、いろいろな活動の時間であり、そういうことで協力していただければいいと思いますが、地域が小難しいことを言って、小学生や中学生を教育してやろうなんて言つたって、できるはずがないので、私の考えとしては一緒にみんなで楽しく地域で過ごそうということを考えております。同時に、「基本に帰れ」ということは先ほど中学生諸君のご意見にもありましたように、「まず、挨拶をしよう。」というのが、一番大事であろうと思います。挨拶のできない人が地域の行事に参加してどうのこうのと言うことはできないと思います。「おはようございます。今日は。」あるいは、「こんばんは。」それが、まず、人間としての地域での生活の基本ではないかと思います。誰しも、挨拶をされて「何だ、ばかやろう。挨拶なんかしやがつて。」と言う人はまずいなと思って、「こんにちは。」と言われば、「こんにちは。今日はいい天気だね。学校、終わつたのかい。今、帰りかい。」あるいは、「今日は何があつた。給食はどうだつた。」というようなことから、地域との交流が始まるように思います。そして、地域で行われるいろいろな行事に参加していただき、先ほど、地域としては耳の痛いような意見をいただきました。小学生であった頃は非常に地域になじみがあつたけれども中学生になつたために、子供会から抜けてしまつて、地域との交流が非常に少なくなつたというご意見もございましたので、これから、我々としては、そのへんの所に目を向け、中学生の皆さんと一緒に地域の活動ができるようになっていかなくてはならない、というふうに思つております。先ほど申し上げたように、健康であつてほしいということは、昔からいろいろなことわざがありますが、正しい心は正しい姿勢から生まれくるといわれておりますが、あえて、ここで中学生の諸君に地域として、苦言を言うということならば、中学生らしい格好をして、町を歩いて下さいということをお願いをしたいと思います。具体的にどうのこうのというと、さしさわりがあろうかと思いますので、ビシツとした中学生らしい格好をして、町を堂々と胸をはつて歩いていただきたいということを申し上げて終わりにしたいと思います。

司会　はい、ありがとうございました。基本に帰るというお話しでしたけれども、最後は中学生にこうあつて欲しいという、厳しいお言葉がありました。では、最後に地域代表の中野さん、よろしくお願ひします。

中野　パネラーも最後となり、私の言いたいことを皆さんのがほとんど言い尽くしておられますので、重複するかもしれません、私が今日、考えてきましたことをお話ししてみたいと思います。今日のテーマに対して、私ども地域側として、どういうふうなことを考へているか、ということを少しお話ししてみたいと思います。今年から、学校の教育制度がかわって週五日制という、非常に大きなテーマに取り組んできております。それは生徒に対して「ゆとりある教育」ということで、生きるための教育ということに対し、日々にこれに取り組んでいくという姿勢が示されたわけでございます。校長先生のお話にありましたように、一週間には七日ありますが、その内の二日、三〇%は皆さんの自分で使える時間になつた訳です。そういう状態の中で、二日間をどういうふうに過ごしていくべきかが、これから大きな問題点となつて、それにはかわるのが、地域ということになりますので、我々としても、皆さんとそちらをどういうふうに今後、どうやっていつたらよいのか、いろいろ考へてみたいと考えております。ところで、現在の状況を振り返つてみると、地域と皆さんの、小学生の子供さんは別として、中学生以上の方の学校に通つておられる方との関わりといふのが、いかに疎遠であるかを、私は町内会長をやつついて、痛感致します。今も、桜井さんからもありましたように、「挨拶ひとつしないじゃないか」。こういうのもひとつの表れではないかと思います。挨拶もしないくらいですから、当然、会話といふことも、今まであります。こういうのは、どうしてでしょうかと振り返つてみると、それにはいろいろと理由があると思います。ひとつには皆さんは年頃で非常に多感な時期で、他の人と話しかけることが、難しい、というのもあるでしょう。しかし、そもそもそうだからといって、そのままにしていたのでは、物事は解決できません。皆さんもご存知のように学校でやつてある勉強という字を見てみると、強い、やる気、嫌だなど思うこともあえてやることが大切だと思いませんか。地域とコミュニケーションを考えているだけでは、少しも発達しま



せん。ある一線を超えてこそ初めて、新しい何かがここに開けて来るものだと思います。これは皆さん方だけにお願いするのではなく、町内会の方でも、地域としても十分に、それを考へていかねばならないと思います。コミュニケーションをはからなければ、何も進んでいきません。お互に心を開いて、向かい合い、お互に信頼しあうことが非常に大切なことではないかと思います。そのお互の信頼の上に立つて初めてコミュニケーションが成り立つだろうと思います。また、一方、今の皆さん方の生活というものを反省してみて下さい。個性を大切にするということはこれは非常に大切なことだと思います。しかし、最近の情勢を見てみると、個性というの何が、目立ちたいということにつながっているのではないかという気がして仕方がありません。個性の表し方、どういうふうにすべきかということに対して、今、サッカーのワールドカップで非常に騒いでおりますけど、サポーターが騒ぐのもいいことかもしれません、その騒ぎが他人の迷惑になるようでは、これはまずい訳です。それは何かというと、やはり、一般常識の上に立つた個性というものを考へていただきたい、と思います。それがひとつでございます。それから、現在の社会情勢というのを見ていますと、子供の危機回避という問題が社会問題として非常に大きく取り上げられております。お隣の小学校でも日常昼間は校門を閉めている。一年前の池田小の問題がありましてから、非常に大きな問題として、この危機管理ということが言われております。大人は常に子供達を、子供達に意識させないで、これを監視していくということを考えなければいけないといたします。こういうことも町内会がこれから学校との関係において、いろいろ、取り上げていかねばならない問題だと思いますが、町内会と学校がよく話し合うということがやはり、必要だと思います。最近、私、ときどき申し上げているのですが、町内会の方、これは行政の方からのいろいろな行事というものがあつて、これを連絡すると、そうするとそれがたまたま学校の行事と正面からぶつかつていて、こういう問題が非常に多く発生しております。これはやはり、町内会と学校のコミュニケーションが不足している問題ではないかと思います。そういう意味でも、町内会としてもいろいろな行事で、運動会であるとか、みかん狩り、ハイキング、こういうようなことを計画してやつていて、それに皆さん、参加して頂きたい訳ですけども、休みの日を使わなければ、皆さんと一緒にやることができない。ところが、その日に、学校の方では、部活があるでしょう。それから、また学校の行事等が計画されていて、なかなかこれに参加していただけないというような問題がありますので、これからは、地域と学校が共にお互いに

アプローチしあつて、こういうような事態が発生しないようにしていくことが、非常に大切なことではないかと思います。いろいろ申し上げましたけれども、現在の地域と学校の関係をよりよいものにしていく為に、今後、皆様といろいろ努力していきたいと思います。



司会 ありがとうございました。中学生には常識ある行動というお話、学校には危機管理等の問題のお話しがありました。それでは、パネラーの方同志、質問ご意見はないでしょうか。小学生、中学生、大人の方に質問ないですか。中学生はいかがですか。では、フロアの方からのご質問ご意見に入りたいと思います。七人の方にお話しをいただきました。どの方に對しても、結構ですので、ご質問ご意見おありの方は、ご自由にご発言下さい。その際には、マイクをお側に持つて行かせていただきますので、お名前等、所属等をお話頂ければと思います。よろしくお願ひします。いかがですか。手が上がりました。

鈴木 三年学級委員の鈴木です。小田切君に質問なんですが、青少年部の活動をしつかりやつてほしいと言つたのですが、特に何をしたいのですか。  
司会 椿ヶ丘の活動について特にどのようなことをしたいのかというご質問ですね。小田切君お願ひします。

小田切 具体的な例としては、冬、十二月頃から、クリスマス会、一月頃から、みんなで、神社に行つて、初詣などをしたいと思います。

司会 そういうお返事ですけど、鈴木君いかがですか。

鈴木 そういう行事にはちゃんと参加

しますか。

小田切 絶対します。

司会 はい。ということですが、鈴木君の町はどちらですか。

鈴木 小田切君と同じで椿ヶ丘です。（笑い）

司会 では、一緒に行つて下さい。よろしくお願ひ致します。

鈴木 わかりました。

司会 はい、他にご質問、ご意見いかがですか。はい、手が上がっています。

中野 二年学級委員の中野です。森下さんに質問なんですが行事に参加しない家が多いと言つていたのですが、森下さんの家では、行事に積極的に参加していますか。

司会 森下さんのお宅では積極的に行事に参加していますか。そういうご質問です。

森下 私の地域では、まだ主な活動は活発化していないのですけれど、出られるものには出ています。飯伏さんの意見のように子供会がわりと活動をやつてるので、中学生の方があまり、行事に出られていないのですが、わりと、地域の方には出ています。

司会 というお返事ですけれどもよろしいですか。他にご質問ご意見。まっすぐ手が上がっております。

宮内 小田中学校三年、学級委員会副委員長の宮内隆です。小田切君に質問です。先

ほど、地域の中でコミュニケーションがあれば、何かあったとき、大丈夫とおっしゃられましたが、「何かあったとき」とは、具体的にどのようなことでしょうか。

山崎 わかりました。

小田切 えーっと椿ヶ丘の町内会ですが、(笑い)あまりあってほしくないんですけれども、椿ヶ丘で、もし火事があつたりなどしたとき、消火活動に積極的に参加したいということです。それが協力し合つたり、助け合つたりすれば、信頼関係が深まつていく、ということです。

司会 あつてほしくはないですが、消火活動やバケツリレーとかしたいというお返事ですが、宮内君、よろしいですか。宮内君はどんなときに参加したいと思いますか。

宮内 小田切君と一緒にあります。(笑い)

司会 ありがとうございます。他にご質

問ご意見いかがですか。一年生の女の子の中で手があがっています。

山崎 生徒会、書記をやつてます、山崎です。地域代表の桜井さんに質問なのですが、挨拶が基本だと言われたのですが、もし知り合いの人と話をしてたりして、他の人と。そういう時つて、どうすればいいのでしょうか。

司会 知り合いの方が、話をしておられて、そのときに、挨拶をしなければいけないと思っていても、できない状態のとき、どうし



桜井 みなさんよく「はーい」ってやりますね。それでいいのではないでしようか。挨拶をしたくとも、相手の人が、話しをしていたら、目礼をして行くだけでいいのではないでしようか。



司会 はい。見つけた人が騒ぎます。

司会 いいですか。会釈とか、軽く目で合図をしたり、ということでいいのではないですか、というお話をしました。

桜井 あえて申し上げれば、挨拶というのは声を出して「今日は」とか「こんばんは」とかいうのが、よりベターではあります、何も声を出さなくたって目礼をして目と目があれば、それでいいのではないでしようか。それが、挨拶だと私は思います。

司会 はい、ということです。それでは他に。はい、手が上がっています。

竹田 三年の学級委員の竹田です。松永さんに質問というか、意見なんですけど、カラスの問題で、最近のカラスは賢いんで、黒い袋でおどかすのも、ちょっと時間がたつと慣れちゃって、怖がらないとと思うので、どんどん次の作戦を考えていくといふと思います。(笑い)

司会 はい、賛成意見で、カラスを撃退するための方法をいろんな新しいアイディアでどんどん作つていきましょう、という意見でしようか。松原さんは他にこんなことをしたら、カラスはいなくなるかなと考えたことがありますか。

松原 あまり。

司会 はい、では竹田君に聞いてみましょう。竹田君はどんなアイディアがありますか。

竹田 あまり、いいアイディアとは思えないけど、騒ぐ。

(笑い) 騒ぎます。

司会 騒ぐというのもひとつの方ではないかという提案でした。他に、まだ手が上がつていましたが、二年生の女子、お願いします。

三枝 二年四組、学級委員をやつてます、三枝です。地域代表の桜井さんに質問なんですが、先ほど、最後の方に中学生らしい格好をして堂々と歩いてほしいと言つておられましたが、それについてなんですが、具体的には、どのようななかつこうで歩いたらしいのでしょうか。

桜井 それでは、あえて、申しあげます。そういうのに心あたりのある方があつたら、「あの親父何を言つてやがる。」ということで、私のところに堂々といつてきていただき結構だと思います。昔の話しをすると笑われるかもしれませんし、皆さんからすれば、時代遅れになるかもしれません。しかし、昔は学校であるとか、兵隊さんであるとかそういういつたものの格好に憧れたものでございます。皆さん達はちょっと知らないかもしれません、戦争中に予科練という兵隊さんたちがおりました。これは歌にもあるように七つのボタンがついた洋服を着て、ちょうどズボンのベルトのへんまでの上着でしたけれどもそれに制帽をかぶつて「憧れの七つボタン」といわれたくらいに、格好のいいものでした。皆さんも格好のいいものには憧れると思います。憧れたら、自分もそれをするようにしてもらつたらしいと思います。具体的に申し上げますれば、カバンを背中にかけて、あれは確か、ボストンバッグと思いますが、お尻のへんでたらして、ブーランコ、ブーランコ歩いている。靴というのは、私はかかとをちゃんと靴の中に入れるものだというふうに解釈しておりますが、一部見うけられる方は、わざわざ靴のかかとを踏んで、サンダルと同じようにペッタンコーペッタンコーと歩いています。ズボンというのはかかとを踏むほど、長くはくものではないと思います。かかとが隠れて、かかとの下にズボンが入っているような、お尻を半分出ているような格好で、ズボンをはくのではないと私は思います。そういうようなのが具体的にということをございます。

司会 はい、ありがとうございました。まだ、何人か手が上がつてましたので、少し聞きたいところなのですが、時間がきてしました。ここで、今日の課題を整理してみたいと思います。ひとつは地域の環境についてです。小学生一人からの発言がありました。地球環境をどのように守つていくのか。あるいは、地域の人達の気持ちの問題でどのように地域が変わつていくのかという部分が述べられていました。それから、もうひとつは、挨拶、行事等、いろいろな具体的な手立ても提示されまし



たが、地域のコミュニケーション、地域の交流をいかに深めていくかという問題点が出されたと思います。今日は、大きく二つの点について話し合いがなされました。このあと分科会で、各地域、両方のテーマについて話し合うことは難しいかもしませんが、どちらかのテーマについて、是非深めていただけるよう、話し合いがされることを期待しております。最後の方では、大変楽しくいろいろな意見がでました。地域との交流を深めていくには堅苦しい中ではなかなか話し合いはできないと思います。是非、分科会も楽しく明るい雰囲気で進めていかれることを望んでおります。

今日はパネラーの皆さんどうもありがとうございます。フロアの皆さん、ご協力ありがとうございました。パネラーの皆さんに最後にもう一度拍手をお願い致します。(拍手)

司会 これで、パネルディスカッションを終わりたいのですが、桜井さんの方から、「ご発言があります。

桜井 先ほどから、環境のカラスの問題が出ておりますけれども、自治会や地域でもいろいろ対策を講じておりますけど、このすぐ下にござります、メールド町内会という所で、やはりカラスの問題が困ったということでいろいろな対策を考えたそうですが、生ゴミを出すときには、新聞紙でくるんで、中の物が、見えないようにしてビニールの袋に入れて捨てて下さい。ということをやつたら、カラスがいなくなつたということござります。カラスというのは臭いで物をつつくのではなく、目で見てつつくそうです。これだけ、大勢の方がいらっしゃいますので、カラスの問題で困っているときには、是非それを実行していただけるようにお願いできたらなどということであえて発言させていただきました。ありがとうございました。

司会 貴重なご意見ありがとうございました。それではこれで、パネルディスカッションを終了したいと思います。皆さんありがとうございました。

横浜市立小田中学校歴代教職員名簿

	教職員氏名	在職期間											
		平成4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
校長	武山 俊彦												
副校長	高橋 啓子												
教諭	嶋村 宏子												
	村松けい子												
	田中まり子												
	金子 嘉雄												
	山本 真理												
	波田 政美												
	鶴鉢 茂子												
	古谷 泰子												
	青山 俊幸												
	木下 健司												
	後藤 博史												
	西尾 正巳												
	太田 礼子												
	佐藤 哲也												
	星野 真理												
	迫 裕一												
	鈴木 博行												
	甲斐 孝昭												
養護教諭	布川英美子												
事務主幹	羽澤 一路												
技能更員	柴田美恵子												
技能更員	東 忠史												
教諭	村田 真理子												
	藤本 純子												
	西 麻之												
	谷口 美香												
	岩田 義之												
	谷井 兑美												
副校長(校長)	寺澤 博昭												
副校長	宮下 岡三												
教諭	大橋 泰雄												
	早川 満晴												
	宮澤 貴												
	小林智恵子												
	関口 昌美												
	鳥澤 美央												
副校長	澤津 亮男												
教諭	鷹取 淳一												
	長町 栄子												
	大谷加代子												
	福田 明芳												
	大浦 悅子												
養護教諭	河野可称代												
事務主幹	樋内由喜子												
校長	大竹 朋子												
教諭	鈴木 靖夫												
	芦澤 典子												
	岩間 和子												
	熊谷 美紀												
	土屋 友子												
	石谷香奈美												
	石黒 崇												
副校長	馬場 庄一												
教諭	瀧田 昭子												
	原田 榮夫												
	渋谷 紗乃												
	原 敦子												
	蒲上 優子												
	井口 雄二												
	細川 勝征												
	熊谷 康子												
	渡部健太朗												
校長	安廣 幸徳												
教諭	三浦 澄明												
	竹内 信義												
	榎 恵子												
副校長	両角 英之												
教諭	武井 康一												
	今井 清												
	齊藤 仁子												
校長	原 泰弘												
教諭	桜井 せつ												
	岩井 直子												
	粒良 敏夫												
	阿部 真記												
	奥田 早苗												
	浦 雅貴												
	佐藤 順子												
	寺島 大輔												
養護教諭	上曾 優子												
技能更員	島津 三徳												

